

この取扱説明書は同種類の投光器と共通になっておりますので、お求めの器具と姿図が違っている場合があります。

丸形投光器

| 投光器形式 | 種類 | 適合ランプ形式 |
|----------|-----|---------------------|
| MTU1011A | 中角形 | H80、H100 NH85 |
| MTU1012A | 狭角形 | H80、H100 NH85 |
| | 広角形 | HF80、HF100 NH85F |

角形投光器

| 投光器形式 | 種類 | 適合ランプ形式 |
|----------|-----|---------------------|
| MTU1021A | 中角形 | H80、H100 NH85 |
| MTU1022A | 狭角形 | H80、H100 NH85 |
| | 広角形 | HF80、HF100 NH85F |
| MTU1521A | 中角形 | HQI TS150W/NDL |
| MTU1522A | 狭角形 | |
| MTU2521A | 中角形 | HQI TS250W/NDL |
| MTU2522A | 狭角形 | |

器具の取り付け工事には電気工事士の資格が必要です。〔施工は必ず電気工事店（有資格者）に依頼してください。〕

施工説明

工事店様へ・・・ 施工の前に、この「取扱説明書」を必ずお読みの上正しく施工してください。
取付工事のあと、必ずお客様へお渡しください。

⚠ 安全上のご注意

ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

器具の取り付けは、本体表示並びに取扱説明書に従って行ってください。取り付けに不備があると器具落下、感電、火災の原因となります。
電源線接続の際は、取扱説明書に従って行ってください。接続が不完全な場合は、接続不良による発熱、火災の原因となります。
器具と被照射面との距離は2m以上離してご使用ください。
照射距離が指定よりも近すぎると、被照射物の変質、変色、火災の原因となります。
この器具は防水形の器具です。凸凹のある面には取り付けないでください。凸凹のある面に取付けると防水性が損なわれ、火災・感電の原因となります。



取り付け

器具を改造したり、部品を変更して使用しないでください。落下、感電、火災等の原因となります。



この器具は、腐食性ガス雰囲気場所には使用しないでください。そのまま使用しますと、変質、変色、絶縁不良、器具の落下の原因となります。

この器具は、海上や海に直接面した重塩害地域では使用しないでください。又海に近い塩害を受ける地域でも使用しないでください。
この器具は、海岸に近い塩害地区には使用できません。早期の錆発生、落下の原因となります。



使用環境

アース工事は電気設備の技術基準に従い確実にこなしてください。アースが不完全な場合は、感電の原因となります。

〔D種（第三種）接地工事〕



この器具は、激しい振動・衝撃の加わる可能性のある場所、常時振動のある場所では使用しないでください。

絶縁不良、器具落下の原因となります。

この器具は、防湿形ではありませんので、湿気の多い場所には使用しないでください。湿気の侵入による絶縁不良、感電の原因となります。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が障害を負う危険が想定される場合および物的損害の想定される内容を示します。

器具（安定器、ランプ）の定格電圧（定格±6%）；使用地域の周波数は、器具の取り付けの際に必ずご確認ください。間違えて使用しますと、安定器、ランプ等の短寿命、火災の原因となります。
周囲温度が、35℃を越える場所では使用しないでください
点灯不良、火災の原因となります。

風速6.0m/秒を越える場所では使用しないでください。
落下の原因となります。

器具に1mを越える雪が積もる恐れのある場所では使用しないでください。
そのまま使用されますと落下の原因となります。

（使用する場合は必ず除雪を行ってください。）



使用環境

器具の取り付けには方向性があります。

本体表示並びに取扱説明書に従って行ってください。
指定以外の取り付けを行うと絶縁不良、感電、部品の焼損の原因となります。

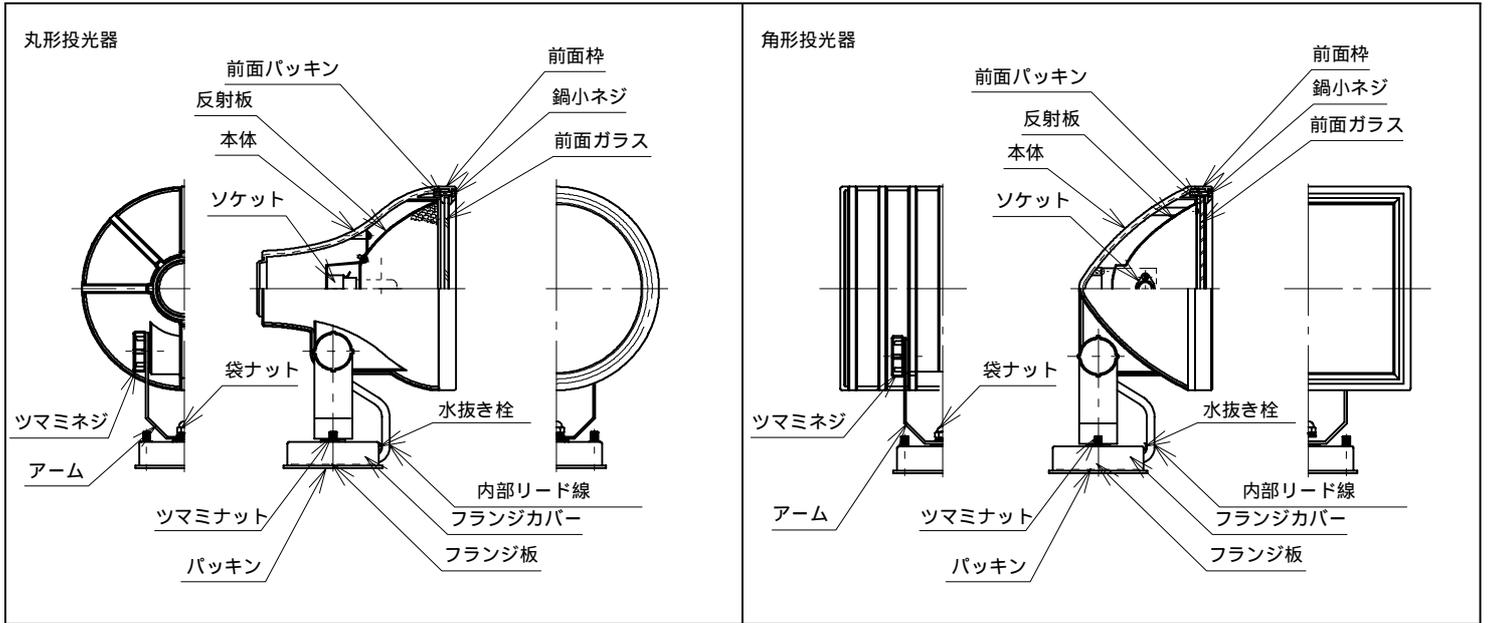
器具を水平面に取付の場合は、ゴム栓をはずさないでください
また、フランジ部が浸水しないよう、グランドラインより高い場所に取付けてください。

浸水、感電の原因となります。

器具を壁面に取付の場合は、ゴム栓をはずして水抜き穴が下向きになる様に取付けてください
浸水、感電の原因となります。



各部のなまえ



器具の取付け方と電線の接続のしかた

フランジ付き器具の取付け方と電線の接続のしかた

器具の取付けピッチは66.7mmと83.5mmです。

器具を取り出してフランジカバー部のツマミナットをゆるめ、防水バックシンとワッシャーをはずしてください。

フランジ板をはずしてください。

ダンボ - ル箱内の防水バックシンを取り出し、取付け側のピッチと防水バックシンの取付けピッチの一致する位置でバックシンの中央部電線穴に一次側の電線を通してください。

フランジ板に一次側の電線を通してしっかりと取付けてください。取付ける際に防水バックシンが取付け面とフランジ板の間になるように組付けてください。

内部電線と一次側の電線を接続してください。

ア - ス線 (緑色) を必ず接続してください。

ア - ス線はD種 (第三種) 接地工事を行ってください。

口出線の結線が不完全な場合には、絶縁不良による発熱、火災の原因となります。

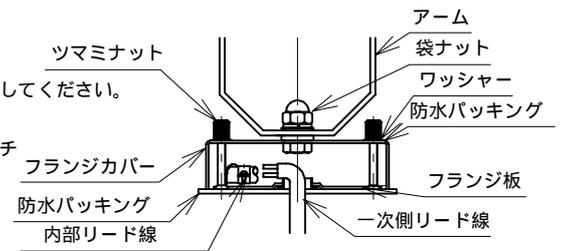


配線工事

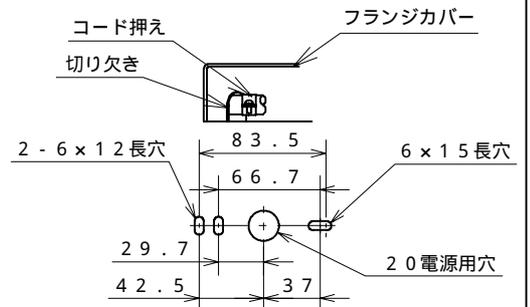
ア - ス線の結線が不完全な場合には、感電の原因となります。



ア - ス工事



防水バックシンはダンボ - ル箱に同梱されています。



接続した電線に絶縁処理・防水処理を施してください。

(注) 接続部の絶縁処理・防水処理に不備があると

火災・感電の原因となります。

内部電線をフランジカバーの切り欠きの間に入れて、コード押えがフランジカバーの中に入るようにしてください。

フランジカバーを、フランジ板に取付けてください。

(注) 電線を外側から引っ張った際に、コード押えがフランジカバーの切り欠きに当たる様に電線長さを調整してください。

(注) コード押えの位置が不完全ですと、外部より電線に力が働いた時に、電線の抜けによる感電の原因となります。

防水バックシンとワッシャーを組付けてツマミナットでしっかりと固定してください。

防水バックシンとワッシャーを組付け忘れしますと、絶縁低下の原因となり感電、火災の原因となります。

(注) H I D器具、H Q I器具の電源線を送り配線には出来ません。

(注) 安定器二次側配電線は600Vゴムキャブタイヤケ - ブル (2CT) と同等以上の性能を有するケ - ブルをご使用ください。

取扱説明

お客様へ・・・ お読みになったあと大切に保存し、必要なお役立てください。

このたびは日立H I D器具をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
ご使用前に、この取扱説明を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。

△ 安全上のご注意

ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。

本文中に使われる
" 図記号 " の意味は
次の通りです。

| | | | | | |
|--|--|--|---|---|---|
|  禁止 |  接触 禁止 |  分解 禁止 |  水場での使用 禁止 |  指示を 守る |  アース を取り 付ける |
|--|--|--|---|---|---|

| | | | |
|--|--|---|---|
| 警告 | | 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに 結びつく可能性があるもの | |
|  | 器具の改造や指定部品以外の交換はしないでください。 (火災・感電・落下の原因) |  | ランプ交換やお手入れの際は、必ず電源を切ってください。電源を入れた ままだと、ソケットにはランプ始動のため高電圧パルスが発生してしま います。 (感電・落下の原因) |
|  | 器具の隙間や放熱穴に金属類を差し込まないでください。 (火災・感電・落下の原因) | |  |
|  | 器具表示の指定ワット (W) 数を越えるランプは使用しないでください。 (加熱して火災の原因) |  | |
|  | 器具 (内部) ・ランプを水洗いしないでください。 (火災・感電の原因) | | |
|  | 煙が出たり変な臭いがしたらすぐに電源スイッチを切ってください。 (火災の原因) | | |

| | | | |
|--|--|---|--|
| 注意 | | 誤った取扱いをしたときに、傷害または 家屋・家財などの損害に結びつくもの | |
|  | 点灯中及び消灯直後はランプ及び器具は高温となっておりますので、 手を触れないでください。 (やけどの原因) |  | ランプはソケットに確実に取り付けてください。 (落下の原因) |
|  | 点灯中のランプから近距離の所で長時間の作業をしたりランプを直視しな いでください。(H I Dランプ) (皮膚炎症や高照度のため目を痛める原因) |  | 高圧ナトリウムランプ・メタルハライドランプ・H Q Iランプが点滅を繰 り返したり、正常に点灯しない場合、直ちに電源を切り、ランプを交換し てください。 (火災の原因) |
|  | ランプは落したり、物をぶついたり、無理な力をくわえないでください。 (破損してけがの原因) |  | 明るく安全にご使用頂くため定期的 (半年に1回以上) に清掃・保守・ 点検を行ってください。 3 ~ 5年に1回は電気工事店等の専門家による点検を実施していただき 不具合がありましたら交換してください。 |
|  | ランプの外管バルブが割れた場合電源を切り、ランプを交換してください。 (紫外線による障害や、破損・落下 によりけがの原因) | | |

| | |
|----------------------|--|
| お 願 い | (1) お手入れなどでランプをはずし、再度取り付ける場合は取扱説明書の「取り付けかた」にしたがい確実に行ってください。 |
| | (2) みがき粉やたわし・ベンジンなどの揮発性のものでふいたり、殺虫剤・熱湯などをかけないでください。また、化学ぞうきんを使用する場合は、その注意書にしたがってください。 |
| | (3) ランプが汚れた場合は、アルコールを浸したきれいな布でふき取ってください。 |
| | (4) 反射板の汚れは、柔らかい布でふき取ってください。汚れがつかると反射率が低下します。 |
| | (5) ガラス部分はいねいに扱ってください。また艶消しガラス・鏡面仕上げの反射板は必ずきれいな手袋を着用して扱ってください。素手 (汚れた手) でさわると手の跡や汚れがとれにくくなります。 |

アフターサービス・・・ ご使用中、もし器具に異常が生じた場合は直ちに使用を中止し、電気工事店または下記のところに、器具の形式・故障状況を連絡のうえ修理を依頼してください。